



誰もが楽しく幸せに6年間を過ごせる別府小学校
～全ての子どもに居場所がある学校づくり～
～学校だより 7月号 巻頭言として～

令和7年6月23日(月)
発行：摂津市立別府小学校
校長 河平 浩一

～子どもたちの素敵なことばを育てていくために～

早いもので、一学期もあと一か月で終了となります。現在、子どもたちは、暑さに負けず、元気にプールに入ったり、授業に真剣に取り組む、休み時間も思い思いに遊んでいる姿が見られます。

学校では、子どもたちの中から「ありがとう」「どうぞ」「だいじょうぶ?」といった、心あたたまることばが日々たくさん聞こえてきます。そんな思いやりや優しさが、私たち大人の心まで明るくしてくれることがあります。

その一方で、何気ない一言が、相手の心に引っかかってしまうこともあります。子どもたちは日々の中で、ことばの選び方や伝え方を少しずつ学んでいる途中です。「そんなつもりじゃなかった」のに相手を傷つけてしまうこともあれば、自分の気持ちがうまく伝えられずに強いことばになってしまうこともあります。

本校の教育目標は、「誰もが楽しく幸せに過ごせる学校」「すべての子どもたちに居場所がある学校」です。すべての子が、「ここにいていいんだ」と安心して過ごせる学級や学校を、子どもたちと一緒につくっていきたいと考えています。

私たち大人にできることは、子どもたちのことばに耳を傾け、よいところを見つけて伝えてあげることです。そして、「ことばは人を幸せにできる力がある」ことを、毎日の関わりの中で感じさせてあげることではないでしょうか。

《——お願い—— ご家庭でも、こんな関わりを意識してみてください。》

1. 子どものよい行動やことばを見つけて、すぐにほめる

◇「ありがとうって言えてたね」「優しいことばを使っててすてきだったね」など、具体的にほめることで、子どもは「またやってみよう」と思えるようになります。

2. 強いことばが出たときは、問いかけて気づかせる

◇「そのことば、もし自分が言われたらどんな気持ちになるかな?」と一緒に考えることで、自分のことばをふり返るきっかけになります。

3. 「まだできない」ではなく「できたこと」を認める

◇「がんばって言おうとしてたね」「あと一歩だったね」など、過程を認めることで、子どもは自信と安心を育んでいきます。



子どもたちのことばは、私たち大人のあたたかなまなざしによって、より豊かに育っていきます。学校と家庭が手を取り合い、あたたかなことばがあふれる毎日をつくっていけたらと願っております。子どもたちの成長を、これからもご家庭と共に見守り、育んでいければと思います。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。